

# 府中市 次世代育成支援行動計画に関する 平成20年度 市民意向調査計画(案)

## 1 調査目的

- 本調査は、後期次世代育成支援行動計画の策定に向けて、前期計画の評価や次期計画における府中市におけるニーズ把握、定量的な目標設定等を行うため、市内に居住する児童の保護者と中高生世代及びひとり親世帯を対象に、実施するものです。

## 2 「後期行動計画」における本調査の位置づけ

- 調査の実施にあたっては、国から出されている「後期行動計画策定の手引き」(素案)に基づき、また、「前期行動計画策定の手引き」等も参考としながら、東京都とも連携を図り実施することとします。これにより、府中市における計画の進捗や地域特性、府中市の独自性なども明らかにしていくものです。
- 国からの「後期行動計画策定の手引き」(素案)では、後期行動計画に盛り込むべき課題として、「仕事と生活の調和」など新たな視点を設定しているほか、対策推進上の留意点として、「利用者の視点にたった点検・評価とその反映」を挙げており、その手法として調査の重要性を指摘しています。
- 国からの「Ⅱ 地域におけるニーズの把握」のポイントとしては3点挙げられ、就学前・就学児向け調査の「モデル調査票」が示されています。

- 1 ニーズ把握の共通の枠組みの設定(家族類型の設定、潜在希望の設定等)
- 2 地域ごとの独自把握内容の検討
- 3 ニーズ把握実施上の留意点(潜在的なニーズ把握、調査設計からの市民参画等)

国からは、この「モデル調査票」を踏まえて、「家族類型」の集計と、それに基づく、現状や潜在的ニーズを算出することが求められています。

- また、国からは「Ⅲ 定量的な目標設定」のポイントとして4点挙げられ、本調査並びに統計データを用いた目標設定が必要とされています。

- 1 国における定量的目標
- 2 全国共通で設定が期待される事業項目と目標水準  
(前期行動計画の際に定めた特定14事業を中心に、全国共通で目標設定が求められる事業)
- 3 地域独自の目標設定の検討
- 4 供給体制を踏まえた事業目標の設定

- また、国からは「Ⅳ 計画の評価方法の検討」のポイントとしては3点挙げられ、前期計画との変化の視点や府中市のポジショニングもふまえた評価が必要となっています。

- 1 評価の枠組み(個別事業、個別事業を束ねた施策レベル、計画全体の評価、利用者視点に立った評価指標の設定)
- 2 評価指標例、評価方法例
- 3 自治体独自の評価指標、評価方法の検討

### 3 調査にあたっての前提

- 本調査は、推進協議会からいただいたご意見をもとに調査設計するとともに、就学前・就学児調査では国から出されている「モデル調査票」を踏まえて調査を行います。また今後も、国や東京都からの追加の指示が来る可能性があるため、それらも考慮しながら調査設計を行います。
- 今回の「行動計画策定の手引き」（素案）においては、中学生以上の調査に対する具体的な指示がないことから、これまで推進協議会でいただいたご意見に基づき、府中市の地域特性や独自性を考える調査としていきます。ただし、「地域行動計画の目標指標例及びニーズ調査の設問例」として、母子保健分野の項目が出されていることから、健康関連部署との協議を行い、ボリュームともに適切な調査設計を行います。

### 4 調査概要

- 以上の点をふまえ、本調査では次の4種類のアンケートを実施します。

区分	調査名	対象者	調査方法
調査1	就学前児童調査	就学前児童の 保護者 3,000 人	郵送法 (督促礼状 1 回送付)
調査2	小学生（就学児）調査	小学生の 保護者 2,000 人	
調査3	中学生・高校生世代調査	中学生 1,000 人、 高校生世代 500 人	
調査4	ひとり親世帯調査	ひとり親世帯 500 人	

<注> 調査1～3の抽出は、ひとり親世帯の保護者・子どもも含めて行います。

※ 今後、東京都、国からの指示により、新たに質問を追加・修正する場合があります。

※ 調査票のレイアウト（文字の大きさなど）は、内容が確定した後、変更いたします。

<調査1、調査2の凡例>

前回との比較：前回と比較が可能な質問。

前回から文言、選択肢等の変更を行っているものは△としている。

国：「後期行動計画策定の手引き」（素案）の中で、モデル調査票に示されている項目、計画全体の評価のために必要とされている調査項目（この質問は、基本的に質問と回答も全国共通となっている）

市独自：府中市が独自に設定した質問。モデル調査票にはない。

※なお、質問内で問が分かれており、国、市独自どちらも含む場合は、△で、併記している。

## 5 調査項目

### 調査1 就学前児童調査

- ① 目的 子育て支援サービスの方向性やあり方、地域生活の現状を探り、後期次世代育成支援行動計画の策定のための基礎資料とします。
- ② 調査対象 就学前児童の保護者 3,000 人
- ③ 調査手法 郵送配布・郵送回収法（督促礼状を全員に1回送付）
- ④ 調査項目 下参照

調査項目	問番号	質問内容	前回の比較	国	市独自
フェイスシート	F 1	あて名のお子さんの生年月日	○	○	
	F 2	子どもの人数、末子の年齢		○	
	F 3	両親・祖父母の近居・同居		○	
	F 4	両親の状況	○		○
	F 5	住宅形態	△		○
	F 6	居住地域	△	○	
	F 7	調査票に記入している人	○		○
A 日ごろの子育て	問 1	日ごろ、子どもをあずかってくれる人の有無		○	
	問 1-1	祖父母に子どもあずけていることに関する意識		○	
	問 1-2	知人・友人に子どもあずけていることに関する意識		○	
	問 2	主たる保育者	○	○	
	問 3	配偶者や周囲の人の子育てへの関わり方	△		○
	問 4	子育てが楽しいと感じる程度	△	○	
	問 4-1	子育てをする中で有効な支援・対策		○	
	問 4-2	子育ての辛さを解消するために必要なこと		○	
	問 5	日ごろの子育てについて感じていること	△		○
	問 6	子育てについて日常悩んでいること、気になること	△		○
問 7	子育てについて気軽に相談できる人の有無		○		
問 7-1	相談する人		○		
B 親の就労状況	問 8	両親の就労状況（就労の有無、就労形態、就労時間・帰宅時間、フルタイムへの転換希望）		○	
	問 8-1	母親の就労希望		○	
	問 8-2	母親に就労希望がある場合希望する就労形態、現在働いていない理由		○	
	問 8-3	就労を希望する時の末子の年齢		○	
	問 9	出産前後の離職の経験		○	
問 9-1	仕事と家庭の両立を支援する介護サービスが整っていたら就労を継続したか		○		
C 保育サービスの利用状況	問 10	保育サービスの利用の有無	△	○	
	問 10-1	利用している保育サービスの種類	△	○	
	問 10-2	利用している時間、理由、施設を選択した理由、施設への要望	△	△	△
	問 10-3	利用していない理由	△	○	
	問 11	あて名のお子さんを親族や知人にあずけているか（平日）	○		○
問 11-1	あずけている日数や時間帯 / あずけている相手	○		○	
D 保育サービスの利用希望	問 12	希望した時期に希望した保育サービスが利用できたか		○	
	問 13	保育サービスの利用希望	△	○	
	問 13-1	あずけたい場所	△		○
	問 13-2	利用する日数・時間、希望する理由	△	○	
問 14	土曜日、日曜日・祝日の保育サービスの利用希望、時間帯	△	○		

調査項目	問番号	質問内容	前回の比較	国	市独自
E 病児・病後児保育	問 15	ここ1年間の病気やケガにおける保育サービスを利用できなかったことの有無	△	○	
	問 15-1	ここ1年間の対処の方法と日数 (できれば施設にあずけたかった日数【病児・病後児保育の利用希望】)	△	○	
	問 16	医療機関と連携したサービスで希望するもの	○		○
	問 16-1	希望する利用頻度	△		○
F 一時あずかり	問 17	ここ1年間で自分のための時間でお子さんを家族以外の誰かに一時的にあずけたことの有無	△	○	
	問 17-1	1年間の日数、理由別日数	△	○	
	問 18	自分のための時間のために一時的にあずけるサービスを希望する日数		○	
	問 19	一時的にあずける場合、希望するサービス	△		○
G トワイライトステイ、ショートステイ、産前産後家庭サポート	問 20	トワイライトステイの認知、利用状況	△		○
	問 20-1	トワイライトステイについてお気づきのこと			○
	問 21	ここ1年間の泊りがけなどの外出で、同伴が困難であったことの有無	○	○	
	問 21-1	ここ1年間の対処の方法と日数	△	○	
	問 21-2	親族知人にあずける際の困難度	○	○	
	問 22	ショートステイの利用意向	△		○
問 23	産後家庭へのホームヘルパー派遣サービスの認知度、利用意向	△		○	
H 学童クラブ、放課後子ども教室	問 24	学童クラブ、放課後子ども教室の利用意向		△	△
I ベビーシッター	問 25	ベビーシッター利用の有無		○	
	問 25-1	利用目的、日数/月、時間		○	
	問 26	ベビーシッターの利用希望		○	
J ファミリーサポートセンター	問 27	ファミリーサポートセンターの認知、利用状況	○	○	
	問 27-1	利用している理由、利用頻度、日数・回数		○	
	問 27-2	利用していない理由、今後の利用意向	△	△	△
K 地域における子育て支援サービス	問 28	平日の日中や休日に家族でよく遊びに行ったり過ごしている場所	△		○
	問 29	親子で集える場の認知度、利用状況	△	○	
	問 30	利用していない理由		○	
	問 31	親子で集える場の利用希望		○	
	問 32	親子で集える場に期待する役割	○		○
	問 33	子どもの遊び場についてお気づきのこと	○		○
問 34	子育ての相談先の認知度、利用状況、利用意向		○		
L 地域との関わり	問 35	近所づきあいの程度			○
	問 35-1	近所づきあいの相手			○
	問 35-2	近所づきあいが希薄な理由			○
M 子育て支援サービスに関する情報の入手方法	問 36	インターネットを利用しての子育て情報入手の有無	△		○
	問 37	行政の子育て支援サービス情報を入手する上で希望する機関	△		○
N 児童虐待	問 38	児童虐待に関する認知度(児童虐待防止法、通報先、相談機関)			○
	問 39	児童虐待の通報先			○
O 安全なまちづくり	問 40	日ごろの安全や防犯について家庭で気をつけていること			○
	問 41	子どもの安全を守るために特に必要なこと			○

調査項目	問番号	質問内容	前回との比較	国	市独自
P 育児休業制度の利用	問 42	育児休業制度の利用経験		○	
	問 42-1	育児休業復帰時のお子さんの年齢、 育児休業明けに希望する保育サービスをすぐに利用できたか、 育児休業期間を調整して保育サービスをすぐに利用できた人の調整月数、できなかった人の対応方法		○	
Q 子育てと仕事の両立	問 43	仕事時間と家事（育児）・プライベート時間の優先度		○	
	問 44	子育てと仕事の両立を図りやすくするために、職場における環境整備で望むこと	○		○
R 市の施策	問 45	市の子育て支援施策に関する意見や要望＜自由回答＞	○		○

## 調査2 小学生（就学児童）調査

- ① 目的 子育て支援サービスの方向性やあり方、児童の日ごろの生活、保護者の地域生活の状況を探り、後期次世代育成支援行動計画の策定のための基礎資料とします。
- ② 調査対象 小学生の保護者 2,000 人
- ③ 調査手法 郵送配布・郵送回収法（督促礼状を全員に1回送付）
- ④ 調査項目 下参照

調査項目	問番号	質問内容	前回との比較	国	市独自
フェイスシート	F 1	あて名のお子さんの生年月日		○	
	F 2	子ども的人数、末子の年齢		○	
	F 3	両親・祖父母の近居・同居		○	
	F 4	両親の状況	○		○
	F 5	住宅形態	△		○
	F 6	居住地域	△	○	
	F 7	調査票に記入している人	○		○
A 日ごろの子育て	問 1	日ごろ、子どもをあずかってくれる人の有無		○	
	問 1-1	祖父母に子どもあずけていることに関する意識		○	
	問 1-2	知人・友人に子どもあずけていることに関する意識		○	
	問 2	主たる保育者	○	○	
	問 3	配偶者や周囲の人の子育てへの関わり方	△		○
	問 4	子育てが楽しいと感じる程度	△	○	
	問 4-1	子育てをする中で有効な支援・対策		○	
	問 4-2	子育ての辛さを解消するために必要なこと		○	
	問 5	日ごろの子育てについて感じていること	△		○
	問 6	母親、父親がお子さんと接する時間			○
	問 7	子育てについて日常悩んでいること、気になること			○
	問 8	子育てについて気軽の相談できる人の有無		○	
問 8-1	相談する人		○		
問 9	希望した時期に希望した保育サービスが利用できたか		○		
B 親の就労状況	問 10	両親の就労状況（就労の有無、就労形態、就労時間・帰宅時間、フルタイムへの転換希望）		○	
	問 10-1	母親の就労希望		○	
	問 10-2	母親に就労希望がある場合希望する就労形態、現在働いていない理由		○	
	問 10-3	就労を希望する時の末子の年齢		○	
	問 11	出産前後の離職の経験		○	
	問 11-1	仕事と家庭の両立を支援する介護サービスが整っていたら就労を継続したか		○	
C お子さんの日々の過ごし方	問 12	ふだんの生活状況	△		○
	問 13	平日の放課後の過ごし方	△		○
	問 14	問 13 の時間帯の主たる保護者の主な用事			○
	問 15	土日祝日の過ごし方	△		○
	問 16	問 15 の時間帯の主たる保護者の主な用事			○
	問 17	夏休みなど長期休暇中の子どもの過ごし方			○
	問 18	学校に行きたがらないことの有無	○		○
	問 18-1	学校に行きたがらないときの対応	○		○
	問 19	いじめを受けたことの有無	○		○
	問 20	いじめを受けた際の対処方法	△		○
問 21	子育ての相談先の認知度、利用状況、利用意向		○		

調査項目	問番号	質問内容	前回の比較	国	市独自
D 放課後や休日の過ごし方	問 22	学童クラブの利用状況	△	○	
	問 22-1	利用日数、土日祝日の利用の有無、利用している理由		○	
	問 22-2	利用していない理由、利用希望（週何日、土日祝日の利用希望）、利用希望がある理由		○	
	問 23	放課後子ども教室の利用希望（週何日）		○	
	問 24	小学4年生以降の希望する放課後の過ごし方（学童、放課後子ども教室、クラブ活動や習いごと）		○	
	問 25	朝の時間の一時あずかりサービスについての利用意向			○
	問 26	文化センターの子ども向け事業やサークルへの参加状況	△		○
	問 27	望ましいと思う子どもが集う場	△		○
	問 28	放課後や休日の子どもの過ごし方に関する意見や要望			○
E 病児・病後児保育	問 29	ここ1年間の病気やケガにおける保育サービスを利用できなかったことの有無		○	
	問 29-1	ここ1年間の対処の方法と日数（できれば施設にあずけたかかった日数【病児・病後児保育の利用希望】）		○	
F 一時あずかりなど	問 30	ここ1年間で自分のための時間でお子さんを家族以外の誰かに一時的にあずけたことの有無		○	
	問 30-1	1年間の日数、理由別日数		○	
	問 31	自分のための時間のために一時的にあずけるサービスを希望する日数		○	
	問 32	トワイライトステイの認知、利用状況	△		○
	問 32-1	トワイライトステイについてお気づきのこと			○
	問 33	ここ1年間の泊りがけなどの外出で、同伴が困難であったことの有無	○	○	
	問 33-1	ここ1年間の対処の方法と日数	△	○	
	問 33-2	親族知人にあずける際の困難度	○	○	
	問 34	ショートステイの利用意向	△		○
G ベビーシッター	問 35	ベビーシッター利用の有無		○	
	問 35-1	利用目的、日数/月、時間		○	
	問 36	ベビーシッターの利用希望		○	
H ファミリーサポートセンター	問 37	ファミリーサポートセンターの認知、利用状況	○	○	
	問 37-1	利用している理由、利用頻度、日数・回数		○	
	問 37-2	利用していない理由、今後の利用意向	△	△	△
I 地域との関わり	問 38	近所づきあいの程度			○
	問 38-1	近所づきあいの相手			○
	問 38-2	近所づきあいが希薄な理由			○
J 子育て支援サービスに関する情報の入手方法	問 39	インターネットを利用しての子育て情報入手の有無	△		○
	問 40	行政の子育て支援サービスに関する情報の希望する入手先	△		○
K 児童虐待	問 41	児童虐待に関する認知度（児童虐待防止法、通報先、相談機関）			○
	問 42	児童虐待の通報先			○
L 安全なまちづくり	問 43	日ごろの安全や防犯について家庭で気をつけていること			○
	問 44	子どもの安全を守るために特に必要なこと			○
M 子育てと仕事の両立	問 45	仕事時間と家事（育児）・プライベート時間の優先度		○	
	問 46	子育てと仕事の両立を図りやすくするために、職場における環境整備で望むもの	○		○
N 市の施策	問 47	市の子育て支援施策に関する意見や要望<自由回答>	○		○

### 調査3 中学生・高校生世代調査

- ① 目的 中高生の日ごろの生活や意識を探り、後期次世代育成支援行動計画の策定のための基礎資料とします。
- ② 調査対象 中学生 1,000 人、高校生世代 500 人
- ③ 調査手法 郵送配布・郵送回収法（督促礼状を全員に1回送付）
- ④ 調査項目 下参照

調査項目	問番号	質問内容	小学生調査と同様の質問
フェイスシート	F 1	性別	
	F 2	年齢	
	F 3	学年	
	F 4	家族構成	
	F 5	家族人数	
	F 6	両親の就業状況	
	F 7	居住年数	
	F 8	居住地域	
A 日頃の生活	問 1	生活時間（勉強、学習塾、部活・サークル、のんびり、電話、テレビ・ビデオ、ゲーム、メール、インターネット、読書）	
	問 2	普段の食事の状況	○
	問 3	母親、父親との会話の頻度	
	問 4	門限	
	問 5	塾に通う頻度	
	問 6	休日の主な過ごし方	
	問 7	気分転換の方法	
	問 8	自分専用のもの	○
B 携帯電話及びインターネットの利用状況	問 9	メールの利用経験、利用意向	
	問 9-1	メールの頻度	
	問 10	インターネットの利用経験、利用意向	
	問 10-1	インターネットの利用形態	
	問 10-2	インターネットの利用状況	
C 日頃関心のあることや感じていること	問 11	今、関心をもっていること	
	問 12	気持ちの上で感じること	
	問 13	行動についての考え	
	問 14	自立についての考え方	
	問 15	仕事や将来についての考え方	
D 悩みについて	問 16	悩みの有無	
	問 16-1	悩みの内容	
	問 16-2	悩みを相談した相手	
	問 17	望ましい相談場所	
E 地域生活	問 18	友人とおしゃべりする場所	
	問 19	あいさつをする大人の有無	
	問 20	注意したらほめてくれる大人の有無	
	問 21	地域活動の参加状況	
	問 22	地域活動の参加意向	

調査項目	問番号	質問内容	小学生調査と同様の質問
F いじめ	問 23	学校や地域社会でのいじめの有無	
	問 23-1	いじめの内容	
	問 24	いじめや差別を受けた際の対処方法	
G 子どもの権利	問 25	子どもにとって大切だと思うこと	
	問 26	親や保護者に望むこと	
H 市への要望	問 27	市に実施してほしいこと	
	問 28	市や大人に対する意見や要望<自由回答>	

## 調査4 ひとり親世帯調査

- ① 目的 府中市在住のひとり親世帯の意識及び実態を把握し、ひとり親世帯への支援の方向性を探ります。
- ② 調査対象 ひとり親世帯 500 世帯（保護者回答）
- ③ 調査手法 郵送配布・郵送回収法（督促礼状を全員に1回送付）
- ④ 調査項目 下参照

調査項目	問番号	質問内容	就学前児童と同様の質問	小学生と同様の質問
フェイスシート	F 1	性別		
	F 2	年代		
	F 3	同居している家族		
	F 4	お子さんの人数		
	F 5	お子さんの成長段階		
	F 6	ひとり親になった理由		
	F 7	ひとり親になってからの年数		
	F 8	住居形態		
	F 9	居住地域		
A 仕事について	問 1	就労の有無		
	問 1-1	就労形態		
	問 1-2	職種		
	問 1-3	働いていない理由		
	問 2	ひとり親になった後での仕事上の変化		
	問 2-1	ひとり親になった後で新たに就職・転職した人の求職活動		
	問 2-2	求職活動中の問題点		
	問 3	資格や免許（現在取得、役に立っている、今後の取得希望）		
	問 4	資格や免許を取得する際の気付き		
B 暮らし向きについて	問 5	仕事を始めるときに必要な支援策		
	問 6	世帯収入の内容		
	問 7	世帯収入の額		
	問 8	就労収入の額		
	問 9-1	育児費・教育費で最も負担の多いもの		
C 日ごろの子育て	問 10	日頃、子どもをあずかってもらえる人の有無	○	○
	問 10-1	祖父母に子どもあずけていることに関する意識	○	○
	問 10-2	知人・友人に子どもあずけていることに関する意識	○	○
	問 11	子育てが楽しいと感じる程度	○	○
	問 11-1	子育てをする中で有効な支援・対策	○	○
	問 11-2	子育ての辛さを解消するために必要なこと	○	○
	問 12	日頃の子育てについて感じること	○	○

※ 就学前児童調査並びに小学生調査と同様の質問について、選択肢を変更したものは△としている。

調査項目	問番号	質問内容	就学前 児童と 同様の 質問	小学生 と同様 の質問
D 子どもの 過ごし方	問 13	就学前の子どもの世話	△	
	問 14	子どもが病気で保育所や学校を休んだ経験の有無	○	○
	問 14-1	子どもが病気のときの対処方法とそれぞれの日数 自分が仕事を休んだ際の困難度 施設にあずけたいと思った日数	△	△
	問 15	就学前及び小学1年から3年生の子どもをもつ人に、自分が病気 のときの子どもの世話		
	問 16	小学生の子どもの放課後の過ごし方		△
	問 17	小学生の子どもの長期休校中の過ごし方		○
	問 18	保護者が泊りがけで外出した経験の有無	○	○
	問 18-1	保護者が泊りがけで外出したときの対処法とそれぞれの日数	○	○
	問 18-2	親族や知人に子どもをあずける際の困難度	○	○
	問 19	ショートステイの利用希望	○	○
	問 20	子育てについて必要な支援策		
E 生活や子 育ての悩み	問 21	生活や子育てについての心配ごと		
	問 22	子どもについての心配ごと	△	△
	問 23	子育てについて相談できる人の有無	○	○
	問 23-1	相談相手	△	△
	問 24	子育ての相談先の認知度、利用状況、利用意向	△	△
F 子育てサ ービスの情報	問 25	インターネットによる情報入手の有無	○	○
	問 26	望ましい情報入手方法	○	○
G 児童虐待	問 27	児童虐待についての知識	○	○
	問 28	児童虐待を見聞きしたときの通報先	○	○
H 地域との 関わり	問 29	近所づきあいの程度	○	○
	問 29-1	近所づきあいの相手	○	○
	問 29-2	近所づきあいが希薄な理由	○	○
I 子育てと 仕事の両立	問 30	仕事時間と子育て・家事・プライベート時間の優先度	△	△
	問 31	子育てと仕事の両立を図りやすくするために、職場における環境 整備で望むもの	○	○
J 市の施策	問 32	ひとり親への支援制度の利用状況、利用意向		
	問 33	悩みや不安、必要と感じる支援など<自由回答>		

※ 就学前児童調査並びに小学生調査と同様の質問について、選択肢を変更したものは△としている。

## 6 集計・分析について

### ◆集計について

集計は、単純集計、全問クロス集計（フェイスシート）、必要に応じて質問間のクロス集計を行います。主な分析軸（案）は以下の通りです。

#### ①就学前児童調査

- ・ 0歳児、1～2歳児、3～5歳児別
- ・ 家族類型<sup>(※1)</sup>別（ひとり親、フルタイム共働き、フルタイム・パート共働き、専業主婦、その他） など

#### ②就学児童調査

- ・ 1～3年生、4～6年生別
- ・ 家族類型別（ひとり親、フルタイム共働き、フルタイム・パート共働き、専業主婦、その他） など

#### ③ひとり就学児童調査

- ・ 父子家庭、母子家庭別
- ・ 子どもの成長段階別 など

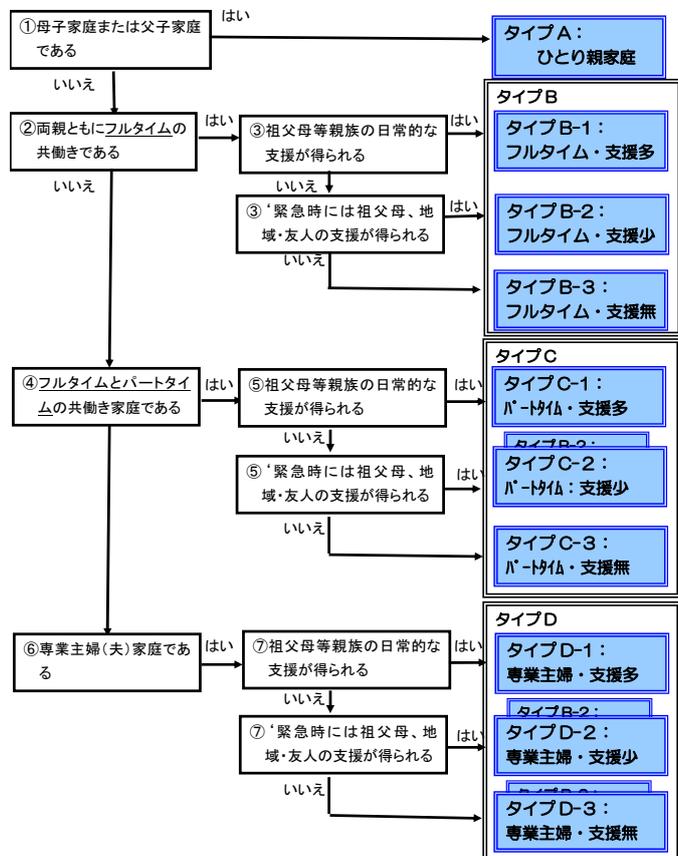
#### ※1 家族類型の作成フロー

（出典：「後期行動計画策定の手引き」（素案））

#### ④中学生・高校生世代調査

- ・ 男女・学年別 など

家族類型の作成フロー



## ◆分析について

分析は、上記集計結果をもとに、保育サービスなどの行政サービスの目標事業量の設定（※2）及び事業に対するニーズの把握、潜在ニーズの把握（※3）、サービスの満足度や子育て意識の把握に基づくアウトカム評価（※4）の分析、自治体独自の評価指標（※5）の設定を行います。

### ※2 目標事業量の設定

事業名	目標単位
①通常保育事業	人
②特定保育事業	か所
③延長保育事業	か所
④夜間保育事業	か所
⑤トワイライトステイ事業	か所
⑥休日保育事業	か所
⑦病児・病後児保育事業	か所
⑧放課後児童健全育成事業	か所
⑨地域子育て支援拠点事業（ひろば型、センター型、児童館型）	か所
⑩一時保育（預かり）	か所
⑪ショートステイ事業	か所
⑫ファミリーサポートセンター事業	か所

※①・②、③～⑤は昼間帯、夜間帯に分けて設定もする

（出典：「行動計画策定の手引き」（素案））

### ※3 ニーズの把握、潜在ニーズの把握

	現状			潜在（希望）		
	現状家庭数	サービス利用家庭数	サービス利用率(%)	潜在家庭数	サービス利用希望家庭数	潜在サービス利用率(%)
A.ひとり親	500	310	62.0	500	375	75.0
B.フルタイム共働き	1,200	780	65.0	1,800	1,440	80.0
C.フルタイム・パート共働き	1,400	770	55.0	1,900	1,140	60.0
D. 専業主婦	6,200	434	7.0	5,000	500	10.0
E. その他	700	175	25.0	800	240	30.0
計	10,000	2,469	24.7	10,000	3,695	37.0

（出典：「行動計画策定の手引き」（素案））

### ※4 アウトカム評価

事業評価として、次のような評価手法があるが、今回、国の策定の手引においては、評価対象として、個別事業レベルの進捗状況（アウトプット）に加え、個別事業を束ねた施策レベル、計画レベルでの進捗状況（アウトカム）も点検・評価することが重要であるとしている。

アウトカム評価：事業の成果による行動変容、意識の変化を表わす指標での評価

アウトプット評価：出力、生産高、生産活動の量を表わす指標での評価

プロセス評価：過程、作業、手順など事業の実施過程を表わす指標での評価

※5 自治体独自の評価項目例（国から示された例）

共通の指標例

施策	評価指標
地域における子育ての支援	①子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者の割合
	②希望した時期に保育サービスを利用することができたと感じる割合（保育サービスの利便性）
	③子育てが地域の人に（もしくは社会で）支えられていると感じる割合（子育てについて、気軽に相談できる人（近所の人・友人）がいる保護者の割合）
職業生活と家庭生活との両立の推進	④仕事と生活の調和の実現が図られていると感じる割合（希望と現実の差）

（出典：「行動計画策定の手引き」（素案））

## 7 スケジュール

10月上旬	調査票入稿
10月下旬	調査票発送 ⇒ 督促礼状発送
11月上旬	締切り
11月中旬	単純集計結果